

課題番号 5

基本方針：Ⅱ		課題名：特色ある柿産地の振興	
対象：JAならけん葛城支店柿部会		計画期間：R3～R5	
		事務所名：中部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R4年度末）	
①改植や新技術の導入による柿園の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> 改植モデル園の設置 改植の啓発 カイガラムシ防除実証 雑草カメムシ実態調査 	改植面積（補植）	0a → 84a
		下等級率（秀、優以外）	37% → 34%
②園地の有効活用による耕作放棄園の発生防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 参加者への栽培指導 オーナー園拡充のための整備指導 実証展示圃 新選果基準の補完資料作成 選果場持込人数調査 	オーナー園参加者数	40名 → 64名
		柿葉生産枚数	19万枚 → 18万枚
		家庭選果基準	3基準 → 2基準 補完資料作成

総合評価（コメント）
<p>A：4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大都市に近い立地を活かし、観光農園、柿葉の展示圃場など、奈良の柿文化を魅せる産地としての発展をさらに模索してください。 ■柿産地の振興に向け色々な普及活動をされていますが、取捨選択も検討いただきたい。 ■リーディング品目の柿をさらに発展させるためには、産地の維持や農業者の意欲向上などによる経営の安定が不可欠であることから、今後も農業者や関係機関と連携した柿振興の取り組みの推進をお願いしたい。 ■いろいろな形で耕作され、放棄園が減る事で、害虫の発生も減るかも分からないし、柿の葉も販売方法により高収益化出来るかも分かりません。 <p>B：2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ■着実に成果が出ているので、部分的に検討し、今後も普及活動を続けてほしい。

普及指導計画への反映状況等
<p>①改植や新技術の導入による柿園の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ■老木園の改植については、これまで集積したモデル園の結果をもとに、改植マニュアルを作成し、令和5年度も改植を啓発する計画。 ■果実の下等級率の低減に向けて、今回実証で効果が認められたスピードスプレー（SS）による、カイガラムシの省力防除法について、生産者への周知を図り、共同防除参加者数の増加を目指すよう取り組みを行っていく予定。 <p>②園地の有効活用による耕作放棄園の発生防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ■オーナー園参加者の増加に向けて、参加者への栽培指導は継続して実施し、耕作放棄園の発生防止に努めていく。加えて、参加者に対し、「御所の柿」のPRを行っていく。オーナー園拡充のための整備指導は、参加者の増加に向けた整備が完了したため、今年度で終了。 ■柿葉については、次年度も部会生産者と需要拡大に向けて、柿の葉寿司業者と打合せを行っていく予定。また、柿葉の単収増加のため、これまでの実証試験結果をとりまとめ、生産者に栽培方法等を周知。